

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 学校法人君津学園 清和大学附属八重原幼稚園（※正式名称を記載）

種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒299-1162

千葉県君津市南子安 1377

E-mail yaehara@seiwa-kinder.jp

Website http://www.seiwa-kinder.jp/yaehara/

幼児児童生徒数 男子 168 名 女子 150 名 合計 318 名

幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 6 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

『人間形成は幼児教育より』の教育理念のもとに、「真心の人」を目指し、毎日を「楽しく遊び」「豊かに学ぶ」教育を本年度においても実践しております。人間として豊かな情操、力強く生きる力が身につけられるよう、豊かな経験と活動を重視し、併設大学・高校との一体化を図っています。また、外国人講師による国際理解教育、体育教育、リズム表現や造形あそびなどをチーム保育で実施しています。環境問題にも積極的に取り組み、『ユネスコチャレンジプログラム』を設定し、積極的に取り組んでいます。

今年度も併設校でユネスコスクールに加盟する、市原中央高等学校インターアクトクラブとの協働で、ユニクロの『届けよう、服のチカラプロジェクト』に参加し、保護者からたくさんの子供服の古着の提供を受けました。また、オーストラリア、インドネシアなどの世界各国からお客様の訪問があったほか、地域の人々との活発な交流の機会がありました。

清和大学附属八重原幼稚園のプロジェクト目的として、以下の 3 点を掲げています。

①外国語教育及び国際交流事業を実施し、コミュニケーション能力と国際社会で役立つ見識を育てるプログラムを実施する。また、身近な環境問題について学ぶ機会も提供し、ボランティア活動精神を育てるプログラムを展開する。

②園児に教室のみならず、地域団体などの協力を得ながら、より現実的な異文化理解の機会を与える。

③園児に異文化、世界平和、福祉教育に関する知識と理解を持たせ、地域社会及び将来国際社会の一員として積極的に参加する機会を与える。



① の写真（英語活動）



② の写真（元気な挨拶活動）



③ の写真（環境美化活動）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

|   |   |   |                                   |
|---|---|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー                 | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災           | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動          | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉         | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育        | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費             | <input type="checkbox"/> 12. 貧困   |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク        | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク                | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)  |                                   |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等      | <input type="checkbox"/> 17. その他( )               |   |                                   |

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

|  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力             | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力          |
| <input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力         | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度              |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 |  |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )           |  |

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

|  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等            | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動     |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )       |                                       |

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

|  |
|--|
| <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br> |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動目標を実現すべく、いかに日常の保育活動において園児たちに指導をするか工夫をしている。具体的には、『資源を大切にすること』を目標とした月には、洗面所やトイレに園児たちにも分かりやすい大きな絵を描いたポスターを掲示するほか、手洗いの場面においては、教職員が一緒になって手洗いをを行い、節水に取り組む活動を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

園独自に『ユネスコチャレンジプログラム』を作成し、計画に従って毎月の取り組みを行っている。各職員が継続的な活動を意識することで、園児への働きかけも行われている。英語レッスンや体操指導など、各特別レッスンにおいても、指導担当者にチャレンジプログラムに沿った指導が導入できるように工夫をお願いしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

千葉県ユネスコ協会の活動研究会及び報告会に参加し、他の学校の取り組みに関する情報共有を行うほか、併設校でユネスコスクールの認証を受けている市原中央高等学校のインタークラブの生徒と協働を行うことで、幼稚園における活動内容の質を高めるように努力を行っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

『ユネスコチャレンジプログラム』を実践することで、国際理解・地域交流・環境理解などの機会を児童達が得ることができた。特に、併設校である市原中央高等学校インターアクトクラブの生徒が行っている「ユニクロの服のチカラプロジェクト」や不要になったクレヨンを回収してフィリピンに送る「マーブルクレヨンプロジェクト」には、保護者の積極的な協力も見られ、ボランティア活動への意識を高めるきっかけとなった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

『ユネスコチャレンジプログラム』の内容をこれまでの実施状況から見直すとともに、さらに教職員、園児、保護者が積極的にユネスコ活動に参加できるようにしていきたいと考えている。また、併設校でユネスコスクールの認証を受けている、市原中央高等学校のインターアクトクラブとの協働の機会を増やし、より活発な交流をしていきたい。また、オーストラリア、ベトナム、インドなどの世界各国からお客様の訪問の予定があり、国際色豊かな異文化交流を実施していく計画をしている。